

完了地区の視点参考シート
(事後評価シート)

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	〇〇県	市町村名	〇〇市	地区名	〇〇市中心地区			面積	〇〇ha				
交付期間	平成16年度～平成20年度		事後評価実施時期	平成20年度		交付対象事業費	〇〇	国費率	0.4				
1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	事業名 市道道路改良事業(2路線)、公園(〇〇公園1箇所)、地域生活基盤施設(案内板、情報板)、高質空間形成施設(植栽・緑化施設、カラー舗装・石畳、照明施設、ストリートファニチャー・モニュメント)、高次都市施設(地域交流センター)										
		提案事業	観光P&R社会実験、歩行者等優先空間整備、ファサード整備、地域文化交流拠点整備										
	当初計画から削除した事業	基幹事業	事業名 ・市道東西45号線道路改良事業、市道m〇号線道路改良事業、地域生活基盤施設(〇〇号線多目的広場) ・高質空間形成施設(東西41号線外、南北120号線、〇〇71号線外、〇〇44号線外)		削除/追加の理由 ・用地交渉の難航により施工困難となったため中止。 ・地元負担等による整備内容に計画変更となり、併せて、整備時期が計画期間外となることから、計画から削除			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響 影響なし					
		提案事業											
	新たに追加した事業	基幹事業	〇〇町〇〇線軌道敷整備、地域生活基盤施設(〇〇人広場整備、〇〇広場整備、〇〇駐車場整備、〇〇跡地進入路)、高質空間形成施設(〇〇周辺、道後41号線、〇〇83号線)		・関係者調整が当初予定よりも早く整い、計画期間内で実施可能となったため追加			影響なし					
提案事業	『〇〇』記念館(仮称)建設、〇〇駅舎改築、まちなか企業立地支援		・制度拡充に伴う、事業の追加			完了地区の視点 ③(評価: oheck) まちづくりの目標達成度合いが高いこと		課4を追加					
交付期間の変更	当初変更	平成16年度～20年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響										
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
	指標1	観光入込み客数	万人	500	14	600	20	-	507	△	あり なし ●	交流拠点や周辺整備等の完成により、観光入込み客数の減少は、H17年で下げ止まり、上昇傾向にある。	平成21年6月
	指標2	〇〇・路面電車・バス等の公共交通機関利用数	万人	2,590	14	2,622	20	-	2,707	○	あり なし ●	交流拠点・周辺整備により、来街者に観光拠点を公共交通機関を利用して回遊する魅力が向上し、利用が促進された。	平成21年6月
	指標3	観光文化等の交流施設(〇〇温泉、〇〇城閣、〇〇記念博物館、〇〇庭園)の利用者数	万人	180	14	216	20	-	174	△	あり なし ●	交流拠点や周辺整備等の完成により、各施設の利用者数の減少は、H17年で下げ止まり、上昇傾向にある。	平成21年6月
	指標4	本市の中心市街地における誘致企業の新規雇用数	人	0	14	2,000	20	-	1,097	△	あり なし ●	現時点では、目標数値に達していないが、誘致できた企業の新規雇用者数は着実に伸びている。	平成21年6月
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
	その他の数値指標1	外国人観光客数	人	4661	14			-	9,400			交流拠点や周辺整備等の完成により観光拠点の魅力が向上し、外国人観光客の来街機会を創出した。	平成21年6月
	その他の数値指標2	事業実施地区の地価上昇率(上段:地区内、下段:地区外)	%	-24.3(-19.5)	14			-	1.8(-4.4)			生活の基盤となるインフラ環境が向上し、地区全域にわたり地価が上昇している。	平成22年4月
	その他の数値指標3	主要観光施設周辺の歩行者数	人	平日1,756 休日2,049	15			-	平日2,870 休日7,156			交流拠点や景観整備の完成により観光拠点の魅力と共に、商店街としての魅力が向上し市民・観光客の来街者数が促進された。	
4) 定性的な効果発現状況	<ul style="list-style-type: none"> ・〇〇委員会の取組みにより、NPOや市民団体のまちづくりへの意欲が向上し、地域資源を活用した団体の参加数が増えている。 ・『〇〇』のまちづくりの取組みに関心をもつ市民が増え、住民参加型市場公募債の発行額が増えている。 ・民間企業のまちづくりへの参加意欲が向上しており、商品販売額の一部を寄付したり、まちづくりPRにも協力している。 ・民間団体のまちづくりへの参加意欲が向上しており、『〇〇』商品化を行い、まちづくりの後押しをしている。 												
5) 実施過程の評価	実施内容		実施状況										
	モニタリング	なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった										
	住民参加プロセス	総合的まちづくり協議会の設立	都市再生整備計画に記載し、実施できた ● 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった										
持続的なまちづくり体制の構築	〇〇委員会の設立	都市再生整備計画に記載し、実施できた ● 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった											

様式2-2 地区の概要

〇〇市中心地区(〇〇県〇〇市) 都市再生整備計画事業の成果概要								
まちづくりの目標		目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値
『〇〇』の具現化により、都市観光の振興を図り、「市民生活の質の向上」と「地域経済・社会の活性化」を目指す	観光入込み客数	単位:万人	500	H 14	600	H 20	507	H19
	〇〇・路面電車・バス等の公共交通機関利用数	単位:万人	2,590	H 14	2,622	H 20	2,707	H19
	観光文化等の交流施設(〇〇温泉、〇〇城跡、〇〇記念博物館、〇〇庭園)の利用者数	単位:万人	180	H 14	216	H 20	174	H19
	本市の中心市街地における誘致企業の新規雇用数	単位:人	0	H 14	2,000	H 20	1,097	H19
		単位:		H		H		H
<div data-bbox="810 683 1288 912" data-label="Image"> </div>								
〇関連事業								
まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> 交流拠点となる〇〇駅舎の完成、その周辺整備となる、〇〇通り(〇〇線)や〇〇周辺整備、埋もれていた地域資源の広場整備、更には、これらを回遊案内する、動線整備や案内板・情報板等の整備により、観光施設利用者数や観光入込み客数の減少は止まった。 地域資源を活用したまちおこし団体も誕生し、イベント開催や案内人養成等、市民自ら活動を行い始めている。 							
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> 主たる基盤整備(ハード整備)は、一定の効果が現れているので、今後は活用(ソフト)の問題となる。観光資源や地域固有の歴史・文化資源を活用した市民のまちづくり団体が主体となって推進し、行政は、情報発信や団体間の連携等の側面支援を行うため、まちづくり団体への支援事業の継続実施や、回遊促進のための回遊バス等の各種ソフト事業を行う。 〇〇ドラマを契機とした市全体の機運の盛り上げを行い、また、ドラマ放映終了後のリピーターを増やし、効果を維持させる事業展開を検討し、ドラマ効果の最大化、持続化を図る必要がある。 商業・業務・観光・福祉施設等の都市基盤施設を活かし、商業振興へ繋げるまちの賑わい創出を図る必要がある。 							
<div data-bbox="1442 1385 2040 1476" data-label="Text" style="background-color: yellow;"> <p>完了地区の視点 ④(改善:act) 今後の方針における改善が実施されており、特徴的な取り組みがされていること。 まちの課題変化を的確に捉えている。ハード整備終了後のソフト事業に関して、市民主体で行い、行政はバックアップの役割分担がなされている等、改善策の記述がされている。</p> </div>								

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)		目標達成度※2	1年以内の達成見込みの有無			
			基準年度	基準年度	基準年度	目標年度	モニタリング	事後評価	モニタリング	事後評価	あり	なし			
指標1	観光入込み客数	万人	平成20年6月末時点 〇〇市観光産業振興課 ・平成20年6月に公表予定である「平成19年〇〇市観光客推定表」を用い、平成19年1年間の〇〇市の観光入込み客数を把握する	540	2	500	14	600	20	モニタリング	—	—	モニタリング	—	●
										事後評価	確定	見込み ●	507	事後評価	
指標2	〇〇・路面電車・バス等の公共交通機関利用数	万人	平成20年6月末時点 〇〇まちづくり担当部長付(都市再生整備計画事業主管課) ・平成20年6月末に公表予定である「平成19年度〇〇鉄道の輸送実績 鉄・軌道 バス運輸人員」を用い、平成19年度1年間の〇〇市の観光入込み客数を把握する	3,544	2	2,590	14	2,622	20	モニタリング	—	—	モニタリング	—	○
										事後評価	確定 ●	見込み	2,707	事後評価	
指標3	観光文化等の交流施設(〇〇温泉、〇〇城閣、〇〇記念博物館、〇〇庭園)の利用者数	万人	平成20年6月末時点 〇〇市観光産業振興課 ・平成20年6月に公表予定である「平成19年〇〇市観光客推定表」を用い、平成19年1年間の〇〇市の主要観光施設入場者数を把握する	221	2	180	14	216	20	モニタリング	—	—	モニタリング	—	●
										事後評価	確定	見込み ●	174	事後評価	
指標4	本市の中心市街地における誘致企業の新規雇用数	人	平成20年6月末時点 〇〇市地域経済課 ・平成20年6月に〇〇市が誘致した企業から報告を受ける計測時点の雇用者数の累計である「新規雇用者数」を用い、事業実施年度からの〇〇市中心市街地の新規雇用者数を把握する	0	2	0	14	2,000	20	モニタリング	—	—	モニタリング	—	●
										事後評価	確定	見込み ●	1,097	事後評価	
指標5										モニタリング			モニタリング		
										事後評価	確定	見込み		事後評価	

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	事後評価の時点では数値目標に至っていないが、毎年の調査結果をみると、着実に増加しており大きな効果はあった。しかし、わが国の長期化している景気低迷等や○○時期が当初予定のH18年から21年へ延期されたこと等の要因により、観光入込客数の予定していた伸びには達しないと判断した。	
指標2	従前値の32万人増を目指したが、回遊型観光を促進させる交流拠点の整備や道路景観整備等が完了したことにより、117万人増の結果を得て期待以上の成果をあげることができた。	
指標3	事後評価の時点では数値目標に至っていないが、毎年の調査結果をみると、着実に増加しており大きな効果はあった。しかし、わが国の長期化している景気低迷等や○○ドラマの放映時期が当初予定のH18年から21年へ延期されたこと等の要因により、観光入込客数の予定していた伸びには達しないと判断した。	
指標4	事後評価の時点では数値目標に至っていないが、誘致した企業の目標年次のH22年度末で、目標数値に達する予定であるため、大きな効果があったと判断した。	誘致した企業毎に、目標年次がそれぞれ違っており、評価時点の目標数値と乖離があった。
指標5		

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○:評価値が目標値を上回った場合

△:評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標		データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)	従前値 (イ)	数値(ウ)		本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)			
単位			基準 年度	基準 年度							
その他の数値指標1	外国人観光客数	人	平成20年6月末時点 〇〇市観光産業振興課 ・平成20年6月に公表予定である「平成19年〇〇市観光客推定表」を用い、平成19年1年間の〇〇市の外国人観光客数を把握する	-	4,661	14	モニタリング	-	-	〇〇ドラマの放映時期が当初予定のH18年から21年へ延期されたこと等により、マイナス影響はあるものの、交流施設整備や回遊動線整備の効果は確実にあったと思われ、観光入込み客数中の外国人観光客数の変化により地区の観光入込み客動向の回復を説明する。	目標1・3を補完して地区の観光入込み客動向の回復を説明する。
							事後評価	確定	見込み ●		
その他の数値指標2	事業実施地区の地価上昇率 上段:地区内 (下段:地区外)	%	平成13年~16年の公示地価の上昇率(平成16年1月1日調査時点) ただし、都市再生整備計画事業区域内と区域外で比較する 〇〇まちづくり担当部長付(都市再生整備計画事業主管課) ・毎年3月末に国土交通省が公表している「地価公示」を用い、事業実施地区の地価上昇率を把握した。	-	-24.3 (-19.5)	14	モニタリング	-	-	・わが国の長期化している景気低迷等や〇〇ドラマの放映時期が当初予定のH18年から21年へ延期されたこと等の要因により、マイナス影響はあるものの、地区内の整備に伴う効果は確実にあったと思われ、地区内と地区外の地価上昇率の変化により、大目標の地域経済・社会の活性化動向を説明する。	目標1・3・4を補完して、地区の観光入込み客動向や観光施設利用者動向、新規雇用動向の回復を説明する。
							事後評価	確定	見込み ●		
その他の数値指標3	主要観光施設周辺の歩行者数	人	〇〇通り(市道〇〇線)整備前のH15年10月の歩行者数 〇〇市総合交通課 ・整備後のH19年2月計測の交通量調査を用い、主要観光施設の歩行者数を把握する。	-	平日1,756 休日2,049	15	モニタリング	-	-	・〇〇ドラマの放映時期が当初予定のH18年から21年へ延期されたこと等により、マイナス影響はあるものの、交流施設整備や回遊動線整備の効果は確実にあったと思われ、観光施設周辺の歩行者数の変化により地区の施設利用者動向の回復を説明する。	目標3を補完して地区の観光施設利用者動向の回復を説明する。
							事後評価	確定 ●	見込み		

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2ー参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

- ・〇〇委員会の取組みにより、NPOや市民団体のまちづくりへの意欲が向上し、地域資源を活用した団体の参加数が増えている。
- ・『〇〇のまちづくりの取組みに関心をもつ市民が増え、住民参加型市場公募債の発行額が増えている。
- ・民間企業のまちづくりへの参加意欲が向上しており、商品販売額の一部を寄付したり、まちづくりPRにも協力している。
- ・民間団体のまちづくりへの参加意欲が向上しており、『〇〇』商品化を行い、まちづくりの後押しをしている。

完了地区の視点

③(評価: check)

まちづくりの目標達成度合いが高いこと
市民のまちづくりへの意欲が向上が見られる等、計画した事業により的確な効果をもたらしたことが記述されている。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
なし	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかった		
	予定したが実施 (理由)	完了地区の視点 ②(実施:do) 住民参加のプロセスとして、組織的にまちづくりを行っている。また、今後も地元住民の意見を聴取していく取り組みがなされる。	

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
総合的まちづくり協議会の設立	予定どおり実施した ●	実施頻度:計12回 実施時期:H16年度 実施結果:地区内のまちづくりの方向性について合意形成を図り、道路整備と景観整備および総合交通体系について地元調整が円滑に進んだ。	今後も必要に応じ、地元意見を聞いて、道路・景観整備等を充実していく。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名:組織の概要	
〇〇サポート委員会の設立	予定どおり実施した ●	『〇〇』〇〇の具現化のため、地域資源の活用に主体的に取り組むNPOや市民団体の支援を学識経験者や民間人で組織する実行委員会で行う。	〇〇サポート委員会 実施頻度:51回 実施期間:H15~20年度 支援団体数:延べ21団体	・まちづくり団体への支援事業を継続実施する。
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内推進会議	関係部局主査級職員 (〇m部 〇〇課(道路建設課) 〇m部 〇〇課 〇〇まちづくりチーム 〇〇事務所 保健福祉部 生活衛生課 都市整備部 都市政策課 公園緑地課 道路建設課 総合交通課 都市開発課(建築指導課) 産業経済部 産業政策課 地域経済課 観光産業振興課(〇〇総合事務所) 〇〇事務所 教育委員会 文化財課	第1回 平成〇〇年〇月〇日 第2回 平成〇〇年〇月〇〇日	〇〇まちづくりチーム(都市再生整備計画事業担当課)

④(改善:act)
まちの達成された課題や今後のまちづくりに関して、地域住民参画が活発になった。まち交事業が終了しても継続的に活動している記述がある。

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した新たな課題
従来の観光資源のみでなく、地域に埋もれている歴史・文化資源を掘起し、ネットワーク化し回遊性を向上した都市観光の振興による地域の活性化、更には、中心市街地の活性化	交流拠点となる〇〇駅舎の完成、その周辺整備となる、〇〇通り(市道〇〇線)や〇〇周辺整備、埋もれていた地域資源の広場整備、更には、これらを回遊案内する、動線整備や案内板・情報板等の整備により、観光施設利用者数や観光入込み客数の減少は止まった。 また、地域資源を活用したまちおこし団体も誕生し、イベント開催や案内人養成等、市民自ら活動を行い始めている。	・事業完了年度以降に延期された〇〇ドラマ効果の最大化、持続化が必要である。 ・都市観光の振興により増加傾向にある来街者を商業振興に繋がるまちの賑わい創出が必要である。	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
A欄 効果を持続させるため に行う方策	市民主体で観光資源や地域資源の魅力向上と回遊促進を図り、相乗効果を創出する	・主たる基盤整備(ハード整備)は、一定の効果が現れているので、今後は活用(ソフト)の問題。 ・観光資源や地域固有の歴史・文化資源を利活用した市民のまちづくり団体が主体となって推進し、行政は、情報発信や団体間の連携等の側面支援を行う。	・まちづくり団体への支援事業を継続実施する。 ・回遊促進のための回遊バス等の各種ソフト事業。
		完了地区の視点 ④(改善:act) まちづくりにおいて、出来たものを更に磨く手段が記述してある。 (他には、まちづくりの波及効果があったものを記述してあるもの)	完了地区の視点 ④(改善:act) 改善すべき考え方を具体的に記述してある。

	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
B欄 改善策 ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	〇〇ドラマ効果の最大化、持続化	・〇〇ドラマを契機とした市全体の機運の盛り上げを行う。 ・ドラマ放映終了後のリピーターを増やし、効果を維持させる事業展開を検討する。	・市外からの来街が見込めるイベント事業や東京や大阪等の都市圏への情報発信事業をドラマ放映後まで行う。
	商業振興へ繋げるまちの賑わい創出	・商業・業務・観光・福祉施設等の都市基盤施設を活かし、新たな来街目的を創出する。	・行政主導の観光施設の魅力向上イベントの強化はもとより、民間主体の観光・商業施設の強化やイベントの強化を行う。

フォローアップ又は次期計画等において実施する改善策を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

完了地区の視点
④(改善:act)
まちづくり委員会等、住民意見をすくい、記述してある。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

本市のまちづくり方策である、市全体を屋根のない博物館とする「『〇〇』〇〇構想」の〇〇周辺センターゾーンと〇〇サブ・センターゾーンについては、残された課題はあるものの、主たる基盤整備(ハード整備)は一定の効果が現れ、従来に比較するとまちづくりは大きく進展した。
次は、他の5つのサブセンターゾーンについて、まちづくりを進めていく必要があると思われる。

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
 ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無	フォローアップ計画			
			年度	年度	年度	年度	見込み	見込み			予定時期	計測方法	その他特記事項	
指標1	観光入込み客数	万人	500	H14	600	H20	確定 見込み ●	507	△	あり なし ●	→	平成21年6月	「平成20年〇〇市観光客推定表」の結果を用い、平成20年度の観光入込み客数を確定値とする	平成20年〇〇市観光客推定表の結果が公表され次第実施
指標2	〇〇・路面電車バス等の公共交通機関利用数	万人	2,590	H14	2,622	H20	確定 見込み ●	2,707	○	あり なし	→	平成21年6月	「平成20年度〇〇鉄道の輸送実績 鉄・軌道 バス運輸人員」の結果を用い、平成20年度の〇〇鉄道の輸送実績 鉄・軌道 バス運輸人員を確定値とする。	「平成20年度〇〇鉄道の輸送実績 鉄・軌道 バス運輸人員」の結果が公表され次第実施
指標3	観光文化等の交流施設(〇〇温泉、〇〇城閣、〇〇記念博物館、〇〇庭園)の利用者数	万人	180	H14	216	H20	確定 見込み ●	174	△	あり なし ●	→	平成21年6月	「平成20年〇〇市観光客推定表」の結果を用い、平成20年度の観光文化等交流施設の利用者数を確定値とする	平成20年〇〇市観光客推定表の結果が公表され次第実施
指標4	本市の中心市街地における誘致企業の新規雇用数	人	0	H14	2,000	H20	確定 見込み ●	1,097	△	あり なし ●	→	平成21年6月	平成21年6月に実施する「新規雇用者数」を計測し、平成20年度の〇〇市の新規雇用者数を確定値とする。	
指標5				H		H	確定 見込み			あり なし	→			
その他の数値指標1	外国人観光客数	人	4661	H			確定 見込み ●	9,400			→	平成21年6月	「平成20年〇〇市観光客推定表」の結果を用い、平成20年度の外国人観光客数を確定値とする	平成20年〇〇市観光客推定表の結果が公表され次第実施
その他の数値指標2	事業実施地区の地価上昇率 上段:地区内 (下段:地区外)	%	-24.3 (-19.5)	H			確定 見込み ●	1.8 (-4.4)			→	平成22年4月	「平成22年地価公示」を用い、平成20年度の事業実施地区の地価を確定値とする。	平成22年地価公示の結果が公表され次第実施
その他の数値指標3	主要観光施設周辺の歩行者数	人	平日1,756 休日2,049	H			確定 見込み ●	平日2,870 休日7,156			→	-	-	-

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	毎年データが算出できる指標を選定したことにより、交付期間中に完成した事業効果を確認することができた。	外部要因による程度相定し、指標を検討すること 完了地区の視点 ④(改善:act) 今後の方針における改善が実施されており、特徴的な取り組みがされていること。 事業整備後の利活用を市民が実施する等の事業管理が、しっかりしている。
	うまくいかなかった点	近年の国内観光動向が低迷していることやNHKスペシャルドラマの放映時期が当初予定の年から21年へ延期されたことのような外部要因により、目標数値を達成する見通しとならなかった。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	なし	住民参加はまちづくり事業を円滑にする上で有効であるとともに、事業実施後の持続可能なまちづくり展開に重要である。
	うまくいかなかった点	なし	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	・総合的まちづくり協議会を通じて、円滑な事業実施ができ、また、整備後の利活用を市民主体で実施し、地域活性化策の一助を担っている。	
	うまくいかなかった点	なし	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	なし	
	うまくいかなかった点	なし	
その他	うまくいった点	なし	
	うまくいかなかった点	なし	

添付様式6ー参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

・今後、事後評価を予定する地区
本市においては、平成23年度に〇〇市南部地区において事後評価の実施予定。当該地区の事後評価の経験を踏まえて、円滑に事後評価を実施したい。